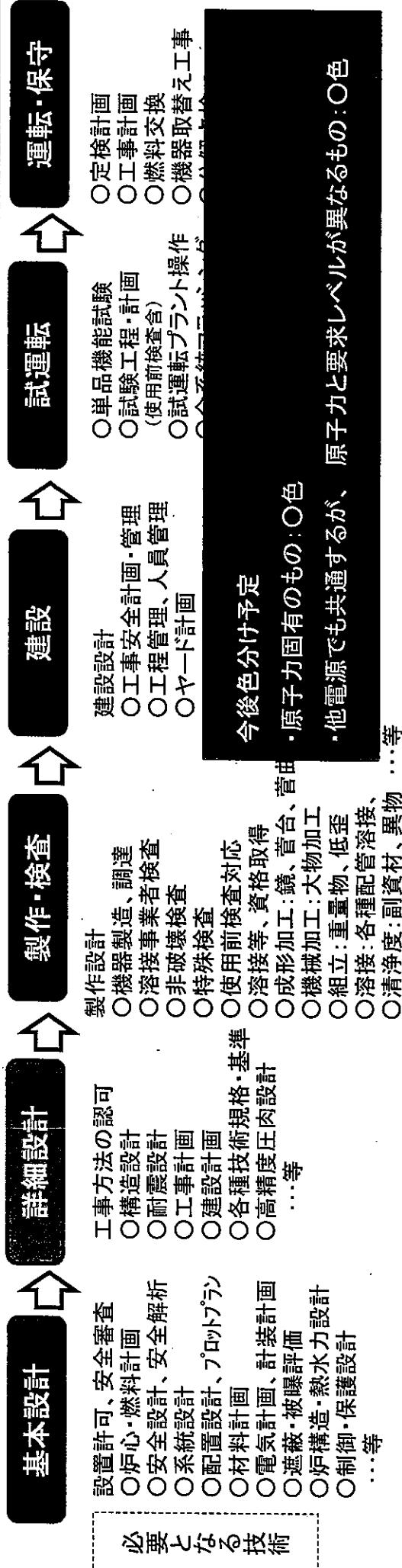


2. 原子力発電に関する技術基盤について

原子力に関する建設・運転・保守に必要な工程・技術

- 原子力基盤を支える技術・ノウハウは、①基本設計、②詳細設計、③製造(含む検査)、④建設、⑤試運転、⑥運転、⑦保守・メンテナンスに分けられる。
- 原子力を活用する点で火力発電等以上の安全性が要求され、かつ高い品質要求を満足させながらの作業となるため、高度なプロジェクトマネジメント、エンジニアリング能力が必要とされる。



これらの技術・知識が、原子力発電所の保守・点検・安全性の向上にも生かされる。
継続的な技術開発と共に、全ての業務プロセスにおける品質保証が重要

火器等と共に技術や製造の技能は保守や取替工事などで維持可能であるが、原子力建設全体で見れば非常に部分的であり、原子力特有の各種技術の高度化・安全性向上は、プラント建設を通じて維持する必要がある。

原子力に特有な技術について

【基本設計】

- 炉心・燃料計画については、……
- 安全設計、安全解析については、……
- 配置設計、プロットプランについては、……

【詳細設計】

- 耐震設計については、……

【製作・検査】

- 溶接事業者検査については、……

【建設】

- 使用前検査対応については、……

【試運転】

- ▲▲▲▲についてのは、……

【運転・保守】

- ▲▲▲▲についてのは、……

検討中

東京電力第一原子力発電所事故におけるメーカーの協力①

- 福島事故対応では、メーカーは事故直後に現場に駆けつけ事故対応に協力。具体的には、■■■は1～4号機の電源復旧、原子炉注水ラインの設置等について貢献。■■■はOOOについて貢献。■■■は貯蔵施設設置等にて貢献。

一部、検討中

○原子炉の詳細設計等に熟知しているメーカーが国内にあることは、安全確保に重要な役割を担っている。

○福島事故に対応した人員は原子力技術に蓄積のある40歳代以上が指導的役割を担っている。

○原子炉の安定的な冷却に向けた「PCV窒素封入」、原子炉の冷温停止状態に向けた「事象解析」等については、プラントの設計思想を熟知している技術者を中心に議論の上推進。

具体的な対応(メークーが果たした役割)

3/11直後～

～7／19まで(STEP1)

~12/17(STEP2)

言教大辭

安定期の左冷却

中華書局影印

中長期措置

置部本部事務所

• SFP外部注水・循環冷却
• PCV密封装置

冷温停止状态

(東京、工場、現地)

R/B環境改善・開放 原子恒作主水

電気設備

(本店、現地)

事象解析(RPV)の実際

SPP信頼多様化

解説 定義構築

原子彈之命運

卷之三

放射線防護專報
第1卷

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之二

東京電力福島第一原子力発電所事故におけるメーカーの協力②

【事故拡大防止について】(インパクトのある写真も掲載)
○事象進展推定解析については、プラントの設計思想を熟知している技術者が▲▲▲の知見をもとに…。

【安定的な冷却について】(インパクトのある写真も掲載)
OPCV窒素封入については、プラント

検討中

【冷温停止状態の達成について】(インパクトのある写真も掲載)
○事象解析については、プラントの設

【中長期的措置について】(インパクトのある写真も掲載)
○燃料取出し等研究開発については、プラントの設計思想を熟知している技術者が▲▲▲の知見をもとに…。